

## 医学部分館開館時間延長及び館内整備について

医学部分館では、学生等からの要望を受け、平成26年4月より閉館時間を20時から22時に延長しました。また、1階に持ち込みパソコンが利用できるスペース（図書館内の電源が使用可能）を用意し、利用者サービスの改善をはかりました。

利用者の皆様の学習や研究に貢献できるよう引き続きサービス向上に努めて参りますので今後ともよろしくお願いいたします。



## 弘前大学出版会より新刊紹介

### 『東日本大震災からの復興(1)想いを支えに』

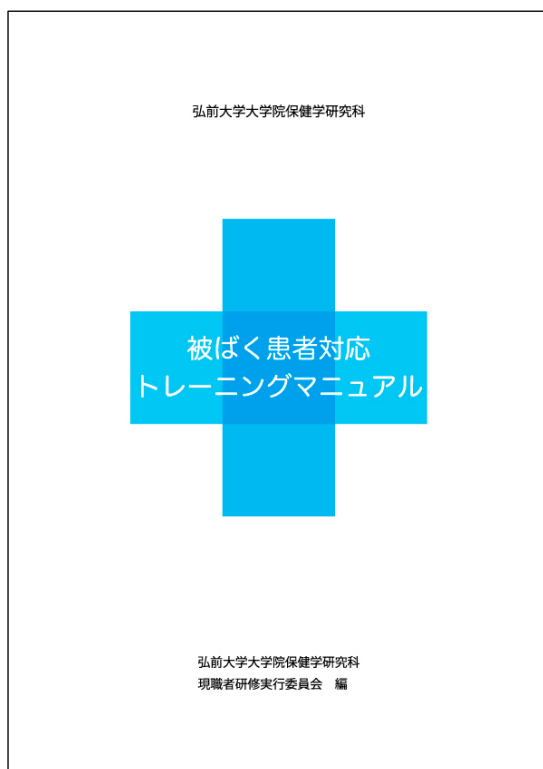
監修：李永俊・渥美公秀



「今、こうやって振り返ってみて、娘や孫たちにしゃべっておかなければいけないと思ったのは、この恩返し。世の中の人たちに。」本書は、岩手県九戸郡野田村の住民による東日本大震災の経験を「聴き書き」した記録である。震度5弱の揺れに襲われた野田村には、大津波が押し寄せ、全世帯の約3割の家屋が被害を受けた。この未曾有の経験とはどのようなものであったのか、またそれ以前の村の暮らしはどのように営まれていたのか、そして人々はこれからの未来をどのように思い描くのか。本書にはこうした、年代も性別も異なる19人の野田村民のさまざまな語りが、聴き取り者とのやりとりを含めて、まとめられている。筆舌に尽くしがたい震災の様子を、ときに涙しながら、後世のためになるならば、とお話をしてくださった。野田村はもちろんのこと、多くの被災地の復興に向けて、また次世代の子どもたちへの教訓としても、本書が寄与するところがあれば幸いである。

## 『被ばく患者対応トレーニングマニュアル』

弘前大学大学院保健学研究科現職者研修実行委員会 編



本書は、大学や病院などの機関が被ばく患者対応トレーニングを開催するための、本邦初のマニュアルです。弘前大学は文部科学省の支援を受け、平成20年から5か年計画で「緊急被ばく医療支援人材育成及び体制の整備」を大学院保健学研究科を中心としてスタートさせました。教職員は、被ばく医療に関する情報を収集するとともに国内外の被ばく医療関連機関でのトレーニングを精力的に行い、被ばく医療の知識とスキルを自ら研鑽し習得してきました。これまで被ばく医療研修は、専門的な機関や組織により行われているものがほとんどでしたが、平成23年3月11日に発生した東日本大震災に伴う原子力災害以来、その重要性はますますクローズアップされています。弘前大学では平成22年から、主に看護職者と診療放射線技師を対象に緊急被ばく医療現職者研修を開催してきました。本書はその研修内容をもとにまとめられたものであり、多くの関連施設でトレーニングを行う際に参考になることを願って刊行されたものです。

## 本学関係者の著作で、図書館に寄贈された図書と資料の一覧

平成25年10月～平成26年3月分受贈分

学部名	寄贈者名	書名	発行所	部数	所蔵先
弘前大学	前学長 遠藤 正彦	医学部こぼれ話	乱反射会	1	本館 1
人文学部	民俗学実習室	新郷村の民俗誌：青森県三戸郡新郷村	弘前大学人文学部民俗学研究室	1	本館 1
	関根 達人	中近世北方交易と蝦夷地の内国化に関する研究	関根達人研究代表（科 研費研究成果報告書）	1	本館 1
	中村 武司	アジアからみたグローバルヒストリー：「長期の18世紀」から「東アジアの経済的再興」へ	ミネルヴァ書房	1	本館 1
	長谷川 成一	特集 環境と持続可能性	北海道東北地域経済総合研究所	1	本館 1
教育学部	元教授 J. N. Westerhoven	De kleurloze Tsukuru Tazaki en zijn pelgrimsjaren	Atlas Contact	1	本館 1